

最近の性教育関係資料

世界各国を通じての現象であるが、近年わが国でも、思春期男女の身体発育に加速化現象 acceleration が見られ、とくに性的早熟傾向がいちじるしい。しかし反面、精神発達や人格形成がかならずしもこの身体面の発育促進化にともなわず、その間のアンバランスから種々の社会問題が惹起されつつある。

このような情勢に対処して、性教育に対する関心が高まり、たとえば最近の世論調査（週刊朝日、東京・京都両地区の住民票から層化抽出、18～60歳の男女合計1,530名対象、面接法、昭44.2）では、92.2%の人が性教育を必要と回答している。この高い関心に応じて、性教育関係図書の出版も数多くなり、試みに評者が最近5か年を限って蒐集閲読した分（性教育プロパーの書ばかりでなく、性教育に関する章を設けてあるものをも含む）だけでも、発行年月順に、(1)宇都宮教育委員会編『子どもたちの純潔教育——教師と親のための手びき』光風社、213 p.p., 昭39.1. (2)大塚二郎『家庭の中の純潔教育——愛情の順序』明文書房、275 p.p., 昭39.5. (3)平井信義『性を考える——父から息子へ』講談社現代新書、233 pp., 昭39.6. (4)林麟『性——この不思議な原理』講談社現代新書、222 p.p., 昭41.3. (5)文部省社会教育局『社会教育における純潔教育の概況』224 p.p., 昭42.3. (6)思春期医学シンポジウム編『思春期の知識』共立出版、362 p.p., 昭42.5. (7)スウェーデン国家教育委員会、佐藤路子訳『スウェーデンの性教育』明治図書、202 p.p., 昭42.9. (8)朝山新一『性教育——教師と両親のためのテキスト』中公新書、222 p.p., 昭42.11. (9)平井信義『思春期との対話——中学生の心とからだ』毎日新聞社、206 p.p., 昭42.11. (10)尾島信夫『娘に与える12章——女子中学・高校生のための性の医学のモラル』主婦の友社、212 p.p., 昭42.11. (11)間宮武『日本の純潔教育』明治図書、339 p.p., 昭43.6. (12)池見酉次郎編『思春期診察室』朝日新聞社、209 p.p., 昭43.9. (13)芦沢忠他編『性教育』続学校教育全書①、446 p.p., (別冊資料を含む)、昭43.9., という多数にのぼる。

しかしこれらをいちいち論評する紙面もなく、またこれらの多数は一般人のための啓蒙書にすぎないが、ひと通り短評を加えると、(1)実験教育の効果が興味をひく。ただし現場教師向き。(2)デカメロンを文学者、レスター・ベックを男性とするような誤を犯しているが、中学校々長としての20年のキャリアは実際技術について教えることがある。(3)男子高校生およびその親向き。(4)ホルモン学の知識が得られる。(5)過去昭25～39にかけて“男性と女性”“性と純潔”といった小冊子6冊を出していた文部省社会教育局が、それまでの性教育の経緯や流れをまとめたもの。社会教育審議会の「純潔教育の普及徹底に関する建議」をはじめ、各官庁・地方自治体の指示・通達・条令・行政組織、あるいは教材（資料・録音・スライド）一覧が収録されていて便利。(6)31名の専門医による共同執筆。思春期発育の生理・病理・性の異常等を扱う。シンポジウム報告37題の要旨も収録され、専門書としての価値あり。(7)1956年に義務化された学校における性指導要領に対し、翌年刊行された教員のための指導手引書、初等教育時代からの徹底かつ詳細な指導内容が印象的。(8)山宣以来の京都学派が性教育の貧困を糾弾する。(9)中学生向きだが、性ノイローゼやスクール・ホビアも扱っている。(10)産婦人科医の説く女性生理の知識。母親向き。(11)教育心理学の立場から男女各年齢の性知識をよくまとめている。専門家向き。性の疑問と答え方は現場教師に参考となろう。(12)九大心療内科グループの実例による心身医学解説。(13)34人の専門家の共同執筆、性教育の歴史から世界の性教育の実状、非行、性病にも及ぶ広範囲を扱い、最も内容豊富な参考書であるが、手を広げすぎ焦点がぼけているうらみも残る。

(青木 尚雄)